

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400087		
法人名	医療法人宏友会		
事業所名	グループホーム太田		
所在地	愛知県半田市乙川太田町1-7-1		
自己評価作成日	平成27年2月4日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.i-koyu.or.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区東区百人町26番地スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成27年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム太田では地域への行事への参加を積極的に行っています。春は花見・春祭り・運動会夏には盆踊りと季節の行事が続きます。又グループホームの周りには大きな公園があり散歩コースとして最適となっています。併設しています小規模多機能ホームとも交流も活発に行っており 毎日が活気に溢れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「相手の立場に立ったサービス、させていただくサービス」の理念に基づく支援に取り組んでいる。利用者の生きがいや楽しみを創出する為、地域行事の盆踊り、運動会、寺の行事にも積極的に参加し、地域住民との交流に努めている。また職員の提案に寄るおやつレク、習字、川柳、体操、お話会等のレクリエーションが充実して隣接されている小規模と合同で毎回楽しいひと時を過ごしている。利用者同士の交流も楽しみとなっているようで、それぞれの居間を行き来している。今後は日常的に散歩の機会をもっと取り入れたり、利用者の介護度に合わせたレクリエーションが上手く出来るように取り組んでいきたいと意欲的に検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に法人理念を職員全員で復唱し理念に沿った介護をすることを目標にしさらに 地域の方への挨拶も積極的に行うよう心掛けている	理念はホーム内に掲示され、毎朝申し送り後に唱和することで共有し、相手の立場を理解し、サービスさせて頂くということを常に心掛け実践出来るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の来訪や運動会、地域の行事にできる限り参加し(盆踊り・花の塔)交流を持つ事が出来た	暖かい日は散歩に出掛け地域の人や保育園児と挨拶を交わしたり、地域のお祭りや盆踊り、寺の行事等に参加し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知に関連しての色々な病気等についての勉強会を運営推進会議で行っているが、地域の人々に対してはまだまだ活かされてはいない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況・活動状況を報告し、情報の交換を行っている。会議で話す内容はミーティングでも話合うようにしている	運営推進会議は二カ月毎に年六回実施している。ホームの活動状況や利用状況を報告し、参加者から意見、助言を受けホームのサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(1)運営推進会議への参加依頼 (2)在宅ケア推進地域連絡協議会への積極的参加(3)在宅医療講座への参加	市役所には更新手続きやパンフレットを持参したり、分からない事が有ると出向いて相談する等協力関係の構築に努めている。市主催の研修に職員は参加し、職員間で共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年4月には、身体拘束のビデオ観賞を全員で行ないその後感想文を出してもらい身体拘束についての具体的な行為については理解が出来ていると思う(但し危険行為がある場合は家族に了解をえて拘束をする場合もある)尚、太田玄関はオートロックです	身体拘束のマニュアルが有り、ビデオを用いた勉強会を毎年4月に行い、理解して意識を高めミーティング時に確認している。スピーチロック等日々のケアの中で管理者はその都度指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様との関わりをよりよいものにするためにメンタル面を特に注視し虐待が見過ごされないよう注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会があったが、制度を活用し支援に結びつけるような活用は出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書での十分な説明・理解・納得図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等での家族の意見や、直接口頭での相談・苦情・要望等をミーティング・朝の申し送りで職員全員で共有し改善に向け努力している	面会時に出された意見要望は職員間で話し合い、速やかな対応が出来るように心掛けています。利用者からは直接聞いたり、日々の関わりの中で聞き出して希望に添えるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の代表者会議・ミーティングでの職員からの意見・提案を職員全員で協議し反映している（個人面談等での意見等）	個人面談は年に一回以上行い、日頃から管理者はコミュニケーションの中で職員の意見、要望の把握に努め、出された意見提案をみんなで話し合って支援に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回各自目標を立てどう実行するか、具体的に挙げている 定期的に代表者が現場を訪れ職員の様子・職場環境等を聞き取り、改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年6回法人内の研修があり その他、法人外の勉強会の機会もありなるべく多くの人に参加出来るよう推進しているが 様々な理由で		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年6回の法人内外での研修の場や在宅ケア推進地域連絡協議会・在宅医療講座等に積極的に参加を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと本人様のお話をお聞きし、安心してご利用頂けるような関係作りに心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が出来ること・出来ないこと、希望等をお聞きし施設で出来ること・出来ないこと等をお話し安心して生活を送って頂くための関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様にとって適切なサービスを心がけている又、過剰なサービスにならないよう配慮している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは何なのかを常に考え、日々変わっていく体調に十分考慮しながら、出来ることはご自身で、出来ないところだけのお手伝いを心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に情報は提供させて頂いている 家族も、協力的であり 共に支えていく関係である		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・友人様の面会、外出等の支援に努めている	馴染みの祭りや神社に初詣に出掛けたり、家族の協力のもと、外食、病院に出掛ける人もいる。ホームに入居してから出掛ける店やスーパーマーケット、喫茶店等も馴染みとなってきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の性格・状況を把握し、個性を大切に、周りとの関わりを持って楽しく生活出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族との関係性を大切に、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人様のお話をお聞きしに希望にそうように努力している	自分の意思の主張ができる人はその話をきき、なかなか主張できない人は、いつもと違う言動がないか、観察することで、変化があれば集中的に職員が関わることで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・友人の方より情報を収集し、これまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日を通し、微妙な変化も見逃さないよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の暮らしの中での、起きてくる課題については、本人・家族様と話し合い、現状に即したプランを作成している	3ヶ月ごとに職員がモニタリングし、ケアマネージャーが家族に状態やプランについて伝え、了解を得て変化がなければ6ヶ月毎に介護計画を作成している。身体機能の変化がみられたら都度見直しし、介護計画を作成し支援に組み込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの書き方の研修がありより細かく具体的に書くことの大切さを職員間で勉強し介護計画の見直しに活かせる情報を記録出来るよう努力している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な要望も、柔軟な支援やサービスを組み合わせ対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との繋がりを持ち、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる支援が出来るよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時には家族に連絡し受診をお願いしている。定期の診察もあり その都度情報提供はしている	かかりつけ医を受診することも可能で、家族受診を基本としているが、職員が付きそうこともある。提携医による紹介や、情報提供を事業所が行うことで医療連携がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護師と連携し、適切な方法を相談しつつ支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換やカンファレンスを行う等して連携には努めている (定期的に見舞いに伺い情報を得ようしている)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と情報を共有し お家族 ご本人への説明を十分に行い 主治医 施設 ご家族と意思統一してケアに取り組んでいる	終末期支援を行っている。提携医との連携がとられており、利用者、家族が望んだ場合、家族、医師、職員が話し合っ、医師の指導のもとで看取りを行う用意があり、実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習に参加し、講習会で得た知識をミーティングで全職員で勉強している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と共に消防訓練を実施し、避難の手順等を職員が確認している	消防署立会いのもとで小規模と合同で夜間想定を、さらにもう一度事業所として夜間想定で一回の避難訓練を行っている。第二避難所として指定されており、地域との連携も模索中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常には職員全員が心がけている (頭ではわかっているが 機嫌をそこねてしまう声かけをしてしまう時がある)	一人ひとりの利用者を尊重し、声の大きさや、わかりやすい声掛けに配慮している。居室に入る時には必ずノックや声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る声かけをするよう心掛けています。思いや希望が伝えられるような信頼関係を築けるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランに沿い支援しているが、その日の状態でプランを変更することもある お一人、お一人の希望に沿えるプラン作りを目指したい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方は少なく職員が同じような服装にならないよう配慮している ご本人が満足のいくおしゃれは支援できていないと思われる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に食事の嗜好をお聞きし より食事が楽しみになるよう配慮している。準備等は職員がするが後かたづけではお盆拭き等のお手伝いをお願いしたりしている	配食を利用しているが、利用者の食べたいものを聞き、外食する時もある。毎日のおやつは小規模利用者と共に手作りで、切る、まぜる、作る、片付けるなど、できることは手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に応じ、副食刻み・極刻み・ミキサー 主食は普通・軟飯・粥・ミキサー等に対応し支援している。又栄養バランスに関しては栄養士が管理し水分量に関しては看護師が管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔を保って頂くよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレへの誘導・排泄パターンをお一人お一人把握し、トイレでの排泄や排尿の自立に向けた支援をしている	排泄チェック表をもとに、一人ひとりのパターンを職員は把握しており、トイレでの排泄に努めている。排泄意欲が薄い人にはさりげない誘導をして自立に向けて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全体で排便の有無を確認しあっている。看護師を中心に一人一人の体質に合わせて自然排便できるように支援している。毎日のおやつ時にオリゴ糖入り紅茶を飲み便秘対策をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は個々のケアプランによって異なります。但しお一人お一人の体調に合わせての入浴もしている	基本を週に3回入浴とし、午前中に入浴をしている。体調や気分も考慮しながら、一人ひとりの希望にあわせ、増減している。ゆず湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での生活習慣に合わせて、太田での休息がとれるよう声かけし休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情について職員全体で把握するよう努めている。病状の変化等については、随時看護師に報告、相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の協力を得ながら、ご本人の希望に沿ったものが提供出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限りは家族の協力のもと希望を叶えるよう支援している。又年間を通して、外出レクリエーションの機会を設けている	天気の穏やかな日は散歩を楽しみ、近隣のいきつけの喫茶や買い物、すし店などに出かけている。花見や、近隣の寺、初詣、遠足といった行事の外出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームでの生活では お金を使うことはあまりないが外出レク等での支払いは個々で支払うよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごして頂くために常に清潔を心掛けている 又、季節・行事等、雰囲気作りに努めている	調湿と消臭のため、床下と壁際の棚の上に炭が並べられた居間は大変掃除が行き届き、すっきりと落ち着きある雰囲気である。エアコンには室温にばらつきがでないようファンが取り付けられ、ソファが二台おかれくつろげるようになっている。玄関には植物と季節の飾りが並べられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の席も常に気を配り楽しく過ごして頂けるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して安全で居心地良くを心がけ ご本人の希望をお聞きしながら 家具・ベッドの位置等も配置している	居室にベッドと筆筒は備え付けられているが、テレビや位牌、人形、小物棚などを持ち込んでいる人もいて、写真や製作物などが飾られ、落ち着ける居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動出来る福祉用具の提供を行い環境の整備を行っている		